

特別展示 「世界遺産を掘る！」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



特別展示「世界遺産を掘る！」展示風景

京都市考古資料館では、平成28年度特別展示として「世界遺産を掘る！」を開催しております。

平成6年(1994)、京都市・宇治市・大津市に所在する寺社・城郭が「古都京都の文化財」としてユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録されて以来、今年で22年となります。

「古都京都の文化財」は、上賀茂神社(賀茂別雷神社)、下鴨神社(賀茂御祖神社)、東寺(教王護国寺)、清水寺、延暦寺、醍醐寺、仁和寺、平等院、宇治上神社、高山寺、苔寺(西芳寺)、天龍寺、金閣寺(鹿苑寺)、銀閣寺(慈照寺)、龍安寺、西本願寺(本願寺)、二条城の17か所の寺社・城郭で構成されてい

ます。京都市全体で、建造物40棟が国宝、163棟が重要文化財、また、庭園8か所が特別名勝、4か所が名勝に指定されていることから、京都を代表する文化財として、国内や海外から多くの参拝客・観光客を迎えています。

一方、これらの寺社・城郭では、整備事業や防災工事などの機会に多数の発掘調査が行なわれ、古代から近代にいたる建造物・庭園の移り変わりが明らかになるとともに、さまざまな遺物が出土しています。今回の展示では、発掘調査で顕著な調査成果が得られた13か所の寺社・城郭を紹介します。土の中に埋もれていた世界遺産の展示を通じて、京都の大きな特色で

ある重層する歴史とともに、天災や戦乱による被害から繰り返し再建され、今日まで守り伝えられてきた「古都京都の文化財」のあり様を体感していただければ幸いです。(山本雅和)



「古都京都の文化財」位置図
● 展示している世界遺産



上賀茂神社境内の調査

平安時代から室町時代の整地層が見つかった。境内採集のペルシャ製のガラス碗は古代社会の国際交流を物語る遺物である。



下鴨神社奈良の小川跡

現在の参道と重なる位置に小川と交差する石組遺構が見つかった。糺の森内の祭祀遺構とともに復元整備が行なわれている。



東寺講堂須弥壇の調査

中央の大日如来台座の下層では、東寺造営の基準になったと考えられる杭の跡や修法の護摩を焚いた痕跡が見つかった。



仁和寺八角円堂の調査

宇多法皇が建立した八角円堂には緑釉瓦が葺かれていた。また、江戸時代には建物の再建や境内の整備が続けられた。



仁和寺出土緑釉瓦

八角円堂の屋根を飾っていた蓮華文緑釉瓦と唐草文緑釉瓦。平安時代中期を代表する優美なデザインの遺物である。



栢ノ杜遺跡復元画

栢ノ杜遺跡は醍醐寺の子院である。八角円堂・方形堂・三重塔などが見つかると、出土遺物は京都市の有形文化財に指定された。



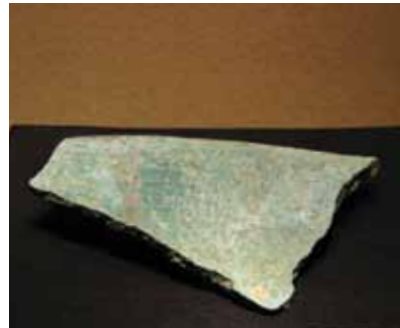
天龍寺霊庇廟跡

大堰川沿いの調査で、八幡菩薩を祀っていた霊庇廟の遺構や創建前に造営された龜山殿の庭園・建物が見つかった。



金閣寺庭園の修羅出土状況

修羅とは木製の大型のソリで、庭園の池底から出土した。庭石などの重量物の運搬に使用したと考えられる。



金閣寺出土金銅製相輪（破片）

相輪とは塔の最上部。直径2.4 mに復元できる大型品で、足利義満が造営した「北山大塔」の一部と推定できる。



銀閣寺庫裏の調査

庫裏とは僧侶の住居と台所を兼ねた建物で、安土桃山時代から現代まで建替えや拡張が繰り返されたようすが判明した。



西本願寺北東部の庭園跡

太鼓楼西側で江戸時代初期の庭園跡が見つかった。また、境内では参拝者が使用したと考えられる多量の伊万里焼が出土した。



二条城行幸御殿跡

城内南部で見つかった、寛永5年（1628）に後水尾天皇を迎えた行幸御殿の遺構は、建物配置が絵図と正確に一致した。